

湘桂作戦

貴州省追撃戦独山一番乗り

宮城県 鎌田章治

私は昭和十七（一九四二）年徴集でありまして、昭和十八年六月二日第一補充兵として仙台第二十二部隊に入隊しました。そして昭和十八年六月十二日仙台第百四連隊に転属になりまして、同日同部隊の補充要員として戦地に向かうことになり、六月十二日に仙台を出発し、門司港から船に乗りまして釜山に上陸し、朝鮮国境を通過、七月二十日頃沙市に到着しました（沙市には連隊本部があった）。

私は衛生兵でありましたので、ここで二カ月あまり衛生兵教育を受けた後、中隊付の衛生兵として第百四連隊第二中隊に配属されました。この第百四連隊第二中隊の中隊長は宮本学大尉で、後述

しますように独山一番乗りの中隊感状を受領するという名誉ある中隊長でありました。

その後、十月二十九日から十二月十九日までの間に常德作戦があり、部隊はこの常德作戦に参加したのですが、私は参加しないで残留することになりました。

昭和十九年の正月を迎えて間もなく、正確には昭和十九年四月二日頃であったと思いますが、鏡部隊は南方へ行くのだと言う噂がたちました。私は部隊の動きが俄かにあわただしくなったものから、これは、てつきり噂の通り南方行きだと思っております。部隊は漢口へ着いたので、それから揚子江（長江）を渡って武昌へ着きました。これはあとから判った事ですが、我々の部隊は南方へ移駐するのではなくて湘桂作戦に参加していたことになるのです。

柳州、桂林を突破して十二月には貴州省独山まで行きました。独山一番乗りの勲功は百四連隊も

感状を授与されるという荣誉に輝きましたが、我が宮本中隊は中隊感状を受けるという偉功に輝きました。

私は衛生兵でありましたので独山一番乗りのもようはよく知りませんが、私が思うのは、その独山の少し手前のところ（地名は忘れまじ）での事です。敵が独山を捨てて逃げる準備をしていたのですが、日本軍の進撃があまりに早かつたものですから、貨車に山砲十四門をはじめ兵器、爆弾、食糧を山のように積んだままの状態で敵は逃げてしまっていました。

我が方はそれをそっくりそのまま頂戴した事は勿論です。そのおびただしい戦利品を獲得したことが中隊感状をいただくことになったのではなかったかなあと私は思っています。

十二月四日の朝、独山を占領したのですが、その日の午後には反転命令が出て、独山をあとに原駐地へ向かいました。

昭和二十年の正月は沙市で迎えました。まるで

狐につままれたような話ですが、衛生兵であった私には関係のない事でした。

陸軍新兵よもやま話

愛媛県 村上龍夫

私は愛媛県西条で、大正九（一九二〇）年一月一日生まれ、第一乙種合格です。

昭和十五（一九四〇）年十二月一日、高知市朝倉の歩兵連隊へ現役兵として入営しました。

十一月二十九日夜、神戸港中突堤より高知港行きの客船に乗り、勤務先の三菱海上火災保険神戸支店の皆様のお見送りを受けました。約六十年近い昔のこと、でもはつきり覚えております。誰がどの辺におり、誰がどんな表情であったかと。

タイピストの谷田お姉さんがタバコケースをそっとプレゼントしてくれました。保険会社ではお姉さんにとってもお世話になったのに、その上餞